

ぼくのわたしの たからもの

無料

平成18年7月16日(日) 9月10日(日)

鈴鹿市考古博物館特別展示室

考古博物館へ
来てくれた
みなさんへ

今回のおよそ
300点の展示品は鈴
鹿市内の小・中学校、
高等学校が大切に
しているものばかり
です。

今回、各学校の
協力で、素晴らしい
宝物を博物館で一堂
に集めて展示するこ
とができました。

せっかく
の機会です。自分
の学校の宝物だけ
なく、いろんな学校の
宝物もじっくり見て
みましょう。

そして、そ
れらの宝物をどん
な人が、いつの時代に、
何のために使っていた
のか考えてみましょ
う。

どうです
か？ 学校にこんな
にも素晴らしい宝物が
あることを知ってしま
したか？ (みなさんの中には、これらの
学校に通っていたり、卒業した人もいるか
もしれませんね。)

これらの
宝物は、たいてい学校
の玄関や資料室の棚に展
示・保管されています。学校
には毎日のように通ってい
ても、気をつけて見ていないと
気がつかなかったのでは
ないでしょうか？

何気なく
置かれていま
すが、それぞれがその
学校を代表するた
いせつ
も大切な宝物ば
かりです。

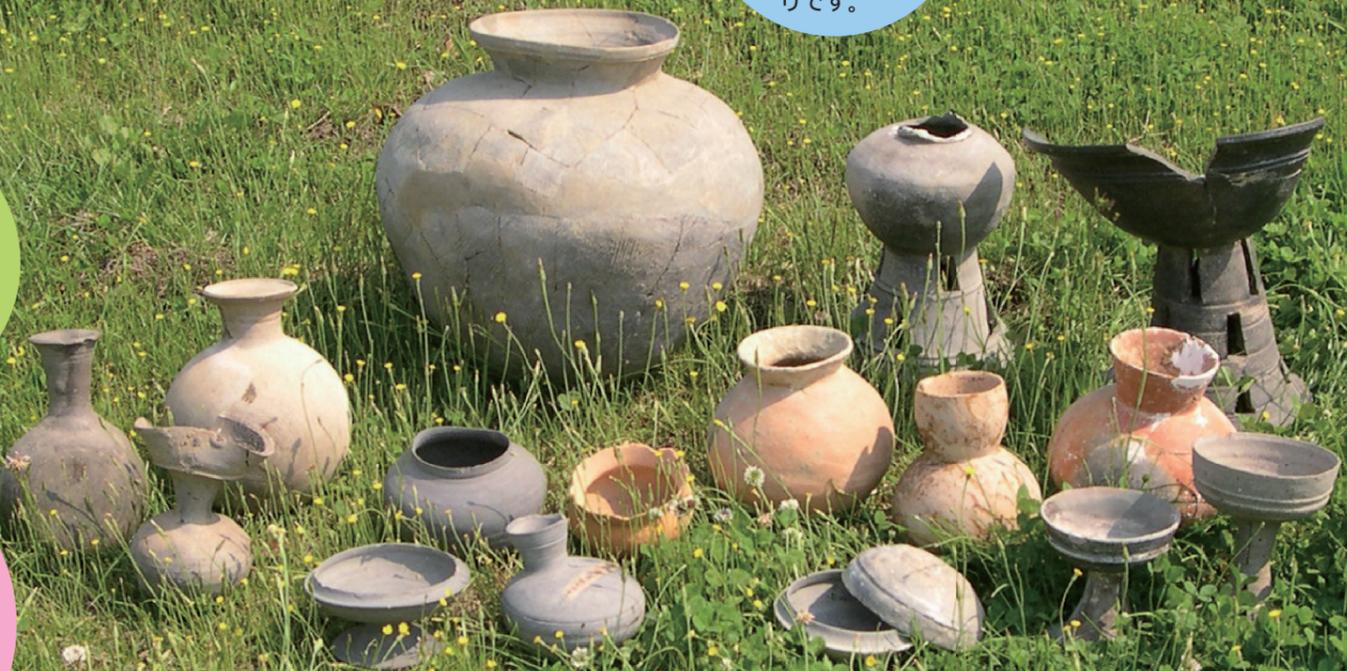
ヒントは博物館の中
にいっぱいあります。展示品
の中にも、説明板の中にも、
このパンフレットの中にも、
また考古ラボに置いてある
本や雑誌で調べたりする
こともできます。

どうして
もわからないと
きは人に聞いて
みるのもいいで
しょう。

そしてこれ
を機会に自分達が生
活している郷土の歴史を
ふりかえって学ぶことによ
り、あらためてふるさとの
すばらしさに気づいてほ
しいと思います。

それではど
うしてみなさんの
学校にこれらの宝物
があるのでしょうか？

答えはいくつ
も考えられます。例えば、
その学校に関係ある人が寄贈
(学校に贈ること)したもので、学校
を建てるときにみつかったもの、校区
にある遺跡で発見されたものなどが考
えられます。他にも、神戸高校のよ
うにクラブ活動で発掘調査をした
遺跡からみつかったものも
あります。



鈴鹿市考古博物館

Suzuka Municipal Museum of Archaeology

〒513-0013 三重県鈴鹿市国分町224

TEL 059-374-1994 FAX 059-374-0986

E-mail: kokohakubutsukan@city.suzuka.mie.jp

URL: <http://www.edu.city.suzuka.mie.jp/museum/>



国府小学校の宝物



国府小学校（国府町 2373-1 明治 8 年設置）の名前にある「国府」とは律令時代、60 あまりの国ごとに置かれた古代の役所（現代風に言い換えれば、県庁にあたります）のことです。古くから伊勢国の国府は、地名にその名前が残っている国府町にあったと考えられてきました。

ところで、この国府町から鈴鹿川をはさんで約 3.5 km 離れた対岸の広瀬町に古瓦が大量にみつかる長者屋敷遺跡があります。平成 4 年から鈴鹿市が発掘調査したところ、古代の役所跡が見つかりました。その後調査を続けた結果、広瀬町の長者屋敷遺跡が伊勢国府跡だということが確かになりました。しかし、このことによって国府町に伊勢国府跡はなかったと否定されたわけではありません。長者屋敷遺跡は初期の国府で、何かの事情で後に国府町に移転したのではないかという意見が今は一般的になっています。

国府地区は鈴鹿川 中 流域右岸の高台にあります。この鈴鹿川 流域は、三重県内屈指の古墳群の分布地帯で、国府 小学校の校区にもたくさんの遺跡があります。代表的な遺跡には北一色遺跡・八野古墳群・保子里古墳群・西ノ野古墳群・三宅神社遺跡・愛宕山 1 号墳・国府 A 遺跡・八野古墳群・石丸野古墳・国府 城 跡・中尾遺跡・平野 城 跡などがあげられ、まさに遺跡の宝庫です。

学校の所蔵品には多くの須恵器類がありました。これらは、おそらく上に記した古墳のいずれかから出土したものと考えられます。



資料名	時代	資料名	時代	資料名	時代
須恵器 壺身	古墳	須恵器 はそつ	古墳	須恵器 壺	古墳
須恵器 坏蓋	古墳	須恵器 提瓶	古墳	磨製石斧	縄文
須恵器 高坏蓋	古墳	須恵器 葉壺	古墳	叩き石	縄文
須恵器 高坏	古墳				



庄野小学校の宝物



庄野小学校（庄野東二丁目 5-35 明治 6 年設置）の校区には、遺跡として知られている場所はありませんが、「庄野」といえば東海道五十三次の 45 番目の宿場町としてよく知られており、江戸時代の絵師安藤広重が描いた「庄野の白雨」は有名です。この東海道は江戸時代の道ですが、それ以前の律令時代にも都と各国の国府を結ぶ交通路としての古代東海道がありました。この道が鈴鹿市内のどこを通ったのかいま わか っておりませんが、国府が広瀬町か国府町にあったことから、鈴鹿川沿いの庄野の付近を古代東海道も通っていたと十分想像できます。古代から庄野は交通の要所だったと考えられます。

学校の所蔵品には石斧や石鏃、骨角器などがありました。断定はできませんが、地元から出土した資料とは考えられないため庄野 小学校に寄贈されたものでしょう。



資料名	時代	資料名	時代	資料名	時代
尖頭器	縄文	楔形石器	縄文	磨製石斧	縄文
石鏃	縄文	骨角器	縄文		



平田野中学校の宝物



平田野中学校（国府町 7781-1 昭和 22 年設置）は国府・庄野 小学校と校区が重なります。主な所蔵品は、八野古墳群から出土した須恵器類などです。今回、全ての所蔵品を鈴鹿市考古博物館に寄贈して頂きました。この展示にあたって、バラバラになっていた資料は修復しました。

遺跡紹介

はちのこふんぐん 八野古墳群

鈴鹿川右岸の丘の上に昔は 25 基ありましたが、現在残っているのは 16 基です。その多くは直径 10 ~ 20m の小型円墳ですが、10 号墳は直径 30m の大きな古墳です。昭和 47 年、開墾に先立ち神戸高校 郷土史研究クラブが 2・3 号墳を発掘しました。

八野 2 号墳 八野町 字北川原にある東西 7.4 m、南北 10.5m、高さ 1.2m の方墳です。古墳の上から二重 口縁を持つ土師器壺が出土しました。5 世紀初頭までに築かれたと考えられています。

八野 3 号墳 同じく八野町 字北川原にある直径 5.3m、高さ 0.8m の円墳です。副葬品として、鉄剣・やりがんな・鉄鏃などが出土しました。これらの遺物から 5 世紀初頭までに築かれたと考えられています。この時期の小型の古墳がかたまると築かれるのは珍しい例です。



資料名	出土地	時代	資料名	出土地	時代	資料名	出土地	時代
須恵器 坏蓋		古墳	須恵器 坏蓋	八野町字北山	古墳	須恵器 坏蓋		古墳
須恵器 坏身			須恵器 坏蓋			須恵器 坏身	西ノ野	
須恵器 短頸壺			須恵器 壺			須恵器 脚付壺		
須恵器 高坏	八野釈迦堂跡	古墳	土師器 壺	八野町	古墳	土師器 壺		古墳
土師器 小壺			土師器 まり			須恵器 高坏蓋	地子町	
山茶碗		鎌倉	人物埴輪		鎌倉	須恵器 坏身	出土地不明	古墳
山皿			須恵器 坏身			須恵器 高坏	出土地不明	
円筒埴輪	出土地不明	古墳	山茶碗	出土地不明	鎌倉	常滑壺	出土地不明	室町



加佐登小学校の宝物



裏山の尾根には高塚古墳群がある



まるがわら丸瓦

ひらがわら平瓦

のきまるがわら軒丸瓦
軒先用の瓦には模様が付いています。
この模様は「重圏文」といい、大阪にあった難波宮という宮殿の瓦と同じ系統のデザインです。

資料名	出土地	時代
軒丸瓦		
丸瓦	伊勢国府跡（長者屋敷遺跡）	奈良
平瓦		

加佐登地区は鈴鹿川中流域左岸の台地上にあります。加佐登小学校（鈴鹿市高塚町1069 明治41年設置）の校区にも津賀平遺跡・北野古墳・椎山中世墓・椎山廃寺・川原井遺跡・川原井瓦窯跡群・椎山川河床遺跡・伊勢国府跡（長者屋敷遺跡）などの多くの遺跡があります。

学校に所蔵されている4点の瓦は全て伊勢国府跡（長者屋敷遺跡）から出土したものです。

遺跡紹介

伊勢国府跡（長者屋敷遺跡）

伊勢国府跡は、古くから古代の瓦が大量に散らばっている場所として知られていました。最初の調査は、昭和32年に京都大学の藤岡謙二郎氏によって行われました。氏はこの遺跡を国府の可能性もあるが、鈴鹿関を警備する軍団跡と考えました。その後、平成4年から鈴鹿市の調査が始まり、平成5年の調査で伊勢国府の政庁跡であることが確認され、平成14年3月には政庁を含む約74,000㎡が国史跡に指定されました。瓦の文様には、主に難波宮系の重圏文軒丸瓦・重圏文軒丸瓦が使われたほか、平城宮と同じ型で文様をつけた均整唐草文軒平瓦が出土しています。



白子小学校の宝物



白子小学校（白子一丁目12-12 明治8年設置）の校区には遺跡はほとんどありません。ただ白子は江戸時代、紀州徳川家が治めていたため、紀州藩の代官所があり、伊勢参宮街道の要衝として栄えました。現在は残っていませんが、白子小学校のすぐ東側が白子代官所跡です。

学校の所蔵品には代官所跡に関連するものはないため、おそらく他の地区の遺跡から出土したものや寄贈されたものと思われる。そのうち、軒平瓦（均整唐草文）1点だけは伊勢国分寺跡から出土したとわかっていますが、他の資料については不明です。

のきひらがわら軒平瓦
軒先用の平瓦。模様が付いている。
この模様は「均整唐草文」です。

資料名	出土地	時代
須恵器 高坏蓋	出土地不明	古墳
須恵器 坏身	出土地不明	
須恵器 長頸壺	出土地不明	
須恵器 平瓶	出土地不明	
須恵器 脚付短頸壺	出土地不明	
土師器 壺	出土地不明	
軒平瓦	伊勢国分寺跡	奈良



すえき 脚付短頸壺
短頸壺に脚がついている

はじきつぽ土師器壺

すえき 長頸壺
頸の長い壺

すえき 高坏蓋
高坏の蓋

稲生小学校の宝物



すえき 須恵器の破片



えんとうはにわ 円筒埴輪

資料名	出土地	時代
円筒埴輪	グリーンヒル	古墳
須恵器破片	三宅町	古墳

稲生小学校（稲生三丁目10-1 明治13年設置）の校区内にある代表的な遺跡には伊奈富遺跡・稲生城跡・稲生遺跡・南谷遺跡などがあります。学校の所蔵品は「グリーンヒル（西の宮遺跡か？）発掘土器」と記録された円筒埴輪の底部と三宅町で採集された須恵器の破片があります。

学校の宝物ではありませんが、伊奈富神社横に建てられている鈴鹿市稲生民俗資料館にも多くの考古資料が保管されています。

鈴西小学校の宝物



鈴西小学校（深溝町3172-1 昭和36年設置）の校区には鞠鹿野A～E遺跡、追分遺跡などがあります。所蔵品はこれらの遺跡から出土したのではなく、伊勢国分寺跡から出土した単弁八葉蓮華文の軒丸瓦1点です。

資料名	出土地	時代
軒丸瓦	伊勢国分寺跡	奈良

のきまるがわら軒丸瓦
蓮の花の模様（蓮華文）です。伊勢国分寺の発掘調査でも、これと同じデザインの瓦がたくさんみついています。





栄小学校の宝物



栄小学校 (五祝町 1845-2 明治9年設置) の校区には明治11年に三角縁神鏡が出土したと言われる赤郷1号墳や前方後円墳の2号墳、国鉄伊勢線 (今の伊勢鉄道) 建設で昭和41年に発掘調査された経塚古墳などたくさんの遺跡があります。そのため所蔵品も古墳時代の須恵器類、中でも茶臼山古墳群から出土した須恵器が多く見られます。

遺跡紹介

茶臼山古墳群

伊勢鉄道中瀬古駅南東の山林に20基あまりがあり、伊勢鉄道より西側の一群はサンゴルフのコース内に盛土され保存されています。丘の先端にある1号墳は直径53mの大型円墳で5世紀代に築かれた可能性がありますが、その他は6世紀後半から7世紀にかけて築かれた小円墳です。

須恵器 長胴甕

煮炊きの道具として使われた長胴甕はふつう火に強い土師器で作られます。これのように、火にかけて使われることのない須恵器で作られることは非常に珍しいです。



鉄刀

須恵器高坏

須恵器脚付短頸壺

須恵器平瓶

須恵器坏身と坏蓋

資料名	出土地	時代
土師器 S字状口縁台付甕	井宮北方畑地	古墳
円筒埴輪	出土地不明	古墳
須恵器 はそう	出土地不明	古墳
須恵器 脚付壺	出土地不明	古墳
須恵器 脚付短頸壺	出土地不明	古墳
須恵器 高坏		
須恵器 坏蓋	藤内山 (茶臼山古墳群)	古墳
須恵器 坏身		
須恵器 短頸壺	出土地不明	古墳
須恵器 長胴甕	出土地不明	古墳
須恵器 提瓶	海善寺 (龜山市井田川町)	古墳
須恵器 提瓶	中瀬古宮跡	古墳
須恵器 坏身	秋永南大門	古墳
須恵器 壺蓋	出土地不明	古墳
須恵器 坏身	大谷頂	古墳
須恵器 坏身	高山 (西高山古墳群)	古墳
陶棺 脚部		

須恵器 甕	出土地不明	古墳
鉄刀	出土地不明	古墳
須恵器 坏身	出土地不明	古墳
須恵器 平瓶	出土地不明	古墳
磁石	郡山町追谷遺跡	不明
山茶碗	秋 (永) 畑	鎌倉
山茶碗	出土地不明	鎌倉
古瀬戸壺	秋永	室町



郡山小学校の宝物



郡山小学校 (郡山町 710-6 平成3年設置) の校区内にある代表的な遺跡として茶臼山古墳群・追谷遺跡・郡山大野古墳群・西高山A・B遺跡・西高山古墳群・西川遺跡・徳居31~34号窯・末野A~D遺跡・寺谷古墳群などがあげられます。これら遺跡の多くは「太陽の街」ができる時に発掘調査が行われています。学校の所蔵品の約半数は、西高山古墳群から出土したものです。

遺跡紹介

西高山古墳群

昭和56年に「太陽の街」造成工事に先立ち発掘調査されました。
西高山1号墳 丘の西の端にある直径30m・高さ1.5mの円墳で、形象埴輪や円筒埴輪が出土しました。5世紀前半頃に築かれました。
西高山2号墳 1号墳から東へ500mの同じ台地上にありました。全長25.5mの前方後円墳で円筒埴輪の列があり、形象埴輪や須恵器が出土しました。5世紀末頃に築かれました。
西高山3号墳 2号墳の東20mにありました。12m x 12mの方墳です。出土した須恵器から判断して6世紀初頭に築かれました。

資料名	出土地	時代
須恵器 はそう		
須恵器 無蓋高坏		
須恵器 台付碗		
須恵器 短頸壺		
須恵器 平瓶	西高山古墳群	古墳
須恵器 坏身		
須恵器 坏蓋		
須恵器 甕		
須恵器 捏鉢		

資料名	出土器	時代
磁石	出土地不明	不明
土錘	出土地不明	不明
紡錘車	出土地不明	古墳
山茶碗	出土地不明	平安
山皿	出土地不明	平安
山茶碗	出土地不明	鎌倉



紡錘車

山茶碗

土錘

須恵器高坏

須恵器平瓶

須恵器はそう

須恵器台付碗

須恵器坏身と坏蓋

須恵器短頸壺

山皿



河曲小学校の宝物



河曲小学校（十宮町719-2 明治25年設置）の校区には中尾山遺跡・沖ノ坂遺跡・沖ノ坂古墳群・富士山1号墳・大鹿山1号墳・伊勢国分寺跡・南浦遺跡・南浦廃寺・狐塚遺跡・大鹿山6号墳・磐城山遺跡・大谷古墳・木田城跡・木田坂上遺跡・山辺塚跡・神戸中学校遺跡・竹野一丁目遺跡などがあり、市内でも国府地区と1・2を争う遺跡の宝庫です。

学校の所蔵品は伊勢国分寺跡出土の軒丸瓦・軒平瓦などがあります。

資料名	出土地	時代
石斧	出土地不明	不明
円筒埴輪	出土地不明	古墳
須恵器 はそう	出土地不明	古墳
須恵器 直口壺	出土地不明	古墳
須恵器 甕	出土地不明	古墳
須恵器 提瓶	出土地不明	古墳
軒平瓦	伊勢国分寺跡	奈良
軒丸瓦	伊勢国分寺跡	奈良
山皿	出土地不明	鎌倉
土錘	出土地不明	不明

須恵器提瓶（提瓶とも読みます。）
もともとは左のように輪を付けて水筒にしていた。やがて置いて使うようになり、紐を通す部分が右のように飾りになってしまいました。



須恵器はそう

須恵器直口壺

須恵器はそう

遺跡紹介

伊勢国分寺跡

国分寺は、天平13(741)年聖武天皇の詔(命令)により国ごとに建てられた寺院です。伊勢国分寺は現在の国分町に建てられました。僧寺(お坊さんの寺)は大正11(1922)年に国史跡に指定された「堂跡」「西高木」「西谷」の辺りと考えられ、約180m四方の築地に囲まれた伽藍地が想定されています。また、尼寺(尼さんの寺)は、僧寺から約450m東に離れた現在の国分町集落内にありました。



伊勢国分寺で使われていた軒丸瓦と軒平瓦



神戸中学校の宝物



神戸中学校（十宮四丁目1-1 昭和22年設置）は学校自体が遺跡の範囲に含まれていて、神戸中学校遺跡という名前が知られています。

学校の所蔵品には須恵器・瓦・埴輪などがあります。その中で柳町中嶋古墳出土と記録されている須恵器がいくつかありますが、柳町中嶋古墳というのは鈴鹿市遺跡地帯には存在しないため、柳町の中嶋遺跡が隣接する塚越古墳群から出土した可能性が高いと思われます。同様に石薬師瓢塚古墳から出土の埴輪も石薬師6号墳から出土したと考えられます。

遺跡紹介

神戸中学校遺跡

神戸中学校が創立された翌年(昭和23年)に校庭を広げるために土を削ったところ、多数の土器が出土し、神戸高校に所蔵されました。弥生時代後期以降のものがほとんどで、他にも土師器や須恵器、奈良時代頃の甕の破片も出土しています。

資料名	出土地	時代
円筒埴輪	石薬師瓢塚古墳	古墳
須恵器 高坏蓋	石薬師東方古墳群	古墳
陶質土器		
須恵器 高坏	出土地不明	古墳
須恵器 坏蓋	国府町西ノ城戸	古墳
須恵器 坏身	出土地不明	古墳
須恵器 坏身	出土地不明	古墳
須恵器 はそう	出土地不明	古墳

資料名	出土地	時代
須恵器 広口壺	出土地不明	古墳
須恵器 壺		
須恵器 広口壺		
須恵器 提瓶	中嶋古墳群出土	古墳
須恵器 はそう		
管玉		
白玉・勾玉	石薬師出土	古墳
軒丸瓦	伊勢国分寺跡	奈良
軒平瓦		



管玉・勾玉・白玉

須恵器広口壺

須恵器壺

須恵器高坏蓋

須恵器高坏
左は蓋付きタイプ。
右は蓋がないタイプのもの。

須恵器はそう

伊勢国分寺で使われていた軒丸瓦と軒平瓦



陶質土器
朝鮮半島系のやきもの



神戸高等学校の宝物



旧制神戸中学校の門

神戸高等学校（神戸四丁目1-80 大正9年設置）の所蔵品は、ほとんどが同校郷土史研究クラブが発掘調査を行った際に出土した資料です。上箕田遺跡を筆頭に多くの遺跡の発掘調査が行われました。その代表的な遺跡を紹介します。

遺跡紹介

あたごこふんぐん 愛宕古墳群

岸岡山の南に連なる丘の上の古墳群で、江島町字愛宕下に位置します。
愛宕1号墳 戦時中砲台陣地となり消滅した円墳です。
愛宕2号墳 愛宕神社内にある前方後円墳です。円筒埴輪や須恵器が出土しました。



須恵器脚付短頸壺
脚付きの頸の短い壺

つかごしこふんぐん 塚越古墳群

金沢川流域の右岸、岸岡町字塚越に6基ありましたが、開墾のために消滅していき、現在は1基しか残っていません。出土した須恵器から判断して6世紀ごろに築かれたと推定されています。



また、画文帯神獸鏡・二神四獣鏡・抜文鏡の三めん（個人蔵）が1号墳から出土したと言われています。

かんべじょうあと 神戸城跡

神戸氏が16世紀中頃に本拠としていた沢城（飯野寺家町）から移ってきたことにより整備が進みました。その後、織田信長の三男信孝が神戸家の養子となり、天正8（1580）年に五重の天守閣を築きました。しかし、この天守閣は信孝没後、豊臣秀吉によって解体され、桑名城に移築されました。現在は野面積み（1）という方法で積み重ねられた石垣だけが残っています。城跡は三重県の史跡に指定され、公園として整備されています。

（1）名前の通り、自然の石をそのまま積み重ねる方法です。見た目は粗野に見えますが、すき間が多いため排水性に優れ意外にがんじょうな積み方です。



かみみだいせき 上箕田遺跡

上箕田町の南の水田地帯にあります。線刻狩猟絵画が描かれた弥生時代後期の壺の発見をきっかけに発掘調査が始まりました。土壌や集落をめぐると思われる溝が数条、中期の方形周溝墓2基、後期の方形周溝墓1基が見つかっています。各時期の土器・石器の他、木製品や銅鐸形土製品が出土しています。この遺跡の資料は常設展示室にもあります。



石斧
石の斧

たかおかやまこふんぐん 高岡山古墳群

鈴鹿川最下流域の高岡町字茶山から宮谷の間にある古墳群です。12基あった古墳も3基が消滅し、現在は9基が残るのみです。



弥生土器壺

須恵器短頸壺

おかだこふんぐん 岡田古墳群

かつて岡田町に12基の古墳がありましたが、大正時代に開墾され6基が消滅し、残っていた6基も昭和35年に社宅建設工事で破壊されてしまいました。出土した須恵器から判断して、この古墳群は6世紀前半に築かれたと考えられます。



須恵器台付壺
台が付いた壺

須恵器器台
器を乗せる台

須恵器高坏

須恵器坏蓋

須恵器坏身



軒丸瓦と鳥爿
手前中央のふたつが巴文
他は立葵文



椽瓦
平瓦・丸瓦の両方の機能を持つ瓦

軒平瓦

きたいつしき いせき
北一色遺跡



縄文土器の破片

ほこりこぶんぐん
保子古墳群

北一色遺跡と同じ鈴鹿川右岸の国府町北一色字保子、字井口の一帯の台地にあります。保子古墳群は戦前には28基もの古墳が確認されていましたが、後世の耕作や開墾によって戦後は18基に減ってしまいました。その後、昭和30年代に工場が建設されることになり、そのため4基の古墳が発掘され消滅してしまいました。下記の3つの古墳は神戸高校郷土史研究クラブによって発掘調査が行われました。

保子14号墳 県道の北側に所在しましたが、昭和35年に開墾に伴い発掘調査が行われました。直径11m・高さ1.4mの円墳で、大正時代にほとんどが盗掘されていましたが、主体部の一部が残っていたため、鉄鍬・刀子・須恵器が出土しました。出土遺物から判断して6世紀前半に築かれたと推定されています。また、墳丘からやや離れた場所から円筒埴輪3個半を組み合わせ、幼児を葬ったと考えられる埴輪棺(4)が発見されています。

(4) 古墳時代に円筒埴輪や朝顔形埴輪を利用して棺として用いたものです。古墳の主体部に埋められるより、墳丘のすそなどに埋められることが多いようです。

保子13号墳 14号墳の北側の松林にありましたが、昭和37年に農地転用に伴い発掘調査が行われました。直径10m・高さ0.6mの平べったい円墳です。13号墳と同様に主体部が盗掘されていましたが、墳頂中央よりやや北側で円筒埴輪棺が発見されました。出土した須恵器から判断して、6世紀前半に築かれたと推定されています。

保子18号墳 鈴鹿川の右岸台地の端にありましたが、昭和38年に工場建設に伴い発掘調査が行われました。直径13m・高さ1.6mの円墳で、北西向きの横穴式石室を主体としていました。須恵器類・勾玉・管玉・鉄刀・刀子・鉄鍬が出土しました。出土遺物から判断して6世紀末から7世紀初めに築かれたと推定されています。



須恵器高杯
須恵器短頸壺
須恵器高杯
須恵器杯身と杯蓋

資料名	出土地	時代
縄文土器片	北一色遺跡	縄文
須恵器 杯蓋	保子13号墳	古墳
須恵器 短頸壺	保子14号墳	古墳
須恵器 高杯蓋	保子14号墳	古墳
鉄鍬・刀子	保子18号墳	古墳
須恵器 高杯	保子18号墳	古墳
須恵器 杯蓋	保子19号墳	古墳
須恵器 杯身	保子19号墳	古墳
土師器 杯	北高岡	奈良
須恵器 短頸壺	高岡山	古墳
弥生土器 壺	高岡山	弥生
須恵器 杯身	石薬師	古墳
軒平瓦	伊勢国府跡	古墳
軒丸瓦	伊勢国府跡 (長者屋敷遺跡)	奈良
文字瓦(刻印瓦)	伊勢国府跡	奈良
須恵器 杯蓋	土師	古墳
須恵器 壺蓋	土師	古墳
須恵器 杯蓋	土師	古墳
須恵器 杯身	塚越古墳	古墳
須恵器 高杯	塚越古墳	古墳
須恵器 短頸壺	塚越古墳	古墳
須恵器 杯身	岸岡山27号墳	古墳
須恵器 平瓶	岸岡町	古墳
弥生土器	岸岡山	弥生
須恵器 脚付短頸壺	愛宕神社	古墳
須恵器 器台	岡田古墳	古墳
須恵器 台付壺	岡田古墳	古墳
須恵器 杯蓋	岡田古墳	古墳
須恵器 杯身	岡田古墳	古墳
須恵器 高杯	岡田古墳	古墳
須恵器 提瓶	岡田古墳	古墳

資料名	出土地	時代
須恵器 はそう	山辺古墳	古墳
瓦質土器 火鉢	山辺横穴墓	室町
土師器 皿	山辺横穴墓	室町
須恵器 提瓶	山辺	古墳
須恵器 杯身	森下山	古墳
須恵器 はそう	森下山	古墳
土師器 瓢壺	神戸高校	古墳
横瓦	神戸高校	古墳
軒平瓦	神戸城	江戸
軒丸瓦	神戸城	江戸
鳥舎	神戸城	江戸
土師器 壺片	神戸中学校遺跡	古墳
弥生土器 小壺	神戸中学校遺跡	弥生
土師器 わん	龍光寺	古墳
軒平瓦	伊勢国分寺跡	奈良
軒丸瓦	伊勢国分寺跡	奈良
鬼瓦	伊勢国分寺跡	奈良
軒丸瓦	白子寺尾家(伝世資料)	江戸
石斧	上箕田遺跡	弥生
土師器 壺	出土地不明	古墳
弥生土器 壺	岸岡	弥生
須恵器 杯	出土地不明	古墳
須恵器 高杯	石薬師	古墳

鈴鹿川右岸の国府町北一色字保子、字井口の一帯の台地にあります。縄文時代中期末から後期初頭、さらに晩期にいたる集落遺跡です。昭和43年に社宅建設工事に伴い、発掘調査を行いました。調査の結果、竪穴住居や晩期の合口土器棺(2)や中～後期の土器・耳栓(3)石鍬・磨製石斧がみつかりました。調査地点以外にも多くの遺物が散らばっており、市内では比較的規模の大きな拠点集落と考えられています。

(2) 二個の土器(甕)の口を合わせてつなげ、棺として用いたものです。ほぼ同型の甕を用いる場合と、一方の土器を蓋をかぶせるように鉢や壺などを利用する場合があります。

(3) 現代のピアスのように耳たぶに開けた孔に挿入して装着するものです。ほとんどは土製で、径1cm以下のものから径9cmほどの大型のものまであります。日本では縄文時代中期から晩期にかけてみられますが、弥生時代以降には使用されませんでした。

やまべよこあなほ
山辺横穴墓

昭和27年、山辺町にある大井神社裏の丘陵で土砂採取中に偶然発見されました。3室が連なる横穴墓で築造時期は7世紀以降と推定されています。出土遺物には、横穴の採光のために使用されたのが、それとも、祭祀のためのものか土師器の灯明皿と唐草文の一部が描かれた瓦質土器があります。



土師器皿

瓦質土器火鉢



瓦質土器火鉢の模様部分

いせこくふあと もじがわら こくいんがわら
伊勢国府跡の文字瓦(刻印瓦)

伊勢国府跡(長者屋敷遺跡)と伊勢国分寺跡からは多くの文字瓦が出土しています。刻印された文字としては、小・前・人・上・百・羊・大・手・川・中・キ・内・宿・水・首・守・天・丁・申・石・領・三・勾などをあげることができ、現在までに20数種類の文字瓦が知られています。一般に文字の意味としては、人名・地名・役所名・年号などが考えられていますが、伊勢国府跡の文字瓦については、地名や年号などと考えるより、人名の一部である可能性が高いようです。



伊勢国府跡の文字瓦(刻印部分)

きょうどしけんきゅう
郷土史研究クラブ

その歴史は古く昭和23年ごろから活動しています。顧問の仲見秀雄先生(故人)を始めクラブ員や卒業生の研究は、鈴鹿市の歴史(郷土史)を語る上で大変貴重な成果をあげました。特に昭和35年の上箕田遺跡の発掘調査ではクラブの名前が県内だけでなく全国にも知られるようになりました。



北野古墳(加佐登町) 昭和51年春の調査



大穴積石塚(加佐登町) 昭和51年(1976年)夏の調査

長年にわたり、郷土史研究クラブの活動を指導されていた大場 範久氏(神戸高等学校元教諭)が今年6月にお亡くなりになりました。大場先生は鈴鹿市文化財調査会の会長もしていた関係で、日頃から考古博物館の企画や運営にも御指導・御協力をいただいております。謹んで御冥福をお祈りします。

知っていると便利！

考古学のことば

縄文土器

縄文時代に使われていた土器（粘土で作って焼いた器）です。土器を作るときに、転がすように縄を押しつけて表面を整えたものが多いのでこの名前がつけました。縄の模様がついていない縄文土器もたくさんあります。



特別展示室のほかにも常設展示室や考古ラボにもいろんなものがあるので、見てみよう。

土師器

古墳時代から平安時代にかけて使われた赤茶色の素焼きの土器です。縄文土器や弥生土器と同じく昔から日本で行われていた方法で作られています。

名前は延喜式という平安時代の本に載っている「はしのうつわもの」という言葉に由来しています。

埴輪

古墳の周りに立てられた祭りのための土製品です。器を載せる台（器台）が変化した円筒埴輪・壺を載せた器台が変化した朝顔形埴輪のほか、人間や動物・道具などをかたどった形象埴輪があります。



考古ラボでは、本物の土器や埴輪・瓦などにさわれるよ！

土錘

魚をとる網につける土でできた錘です。とても長い間、ほとんど同じような形のものが作られたので、それだけではいつの時代のものかなかなかわかりません。一緒にみつけたものを手がかりにして判断します。



山茶碗・山皿

尾張・美濃（現在の愛知・岐阜県）を中心に古代末から中世にかけて作られたやきものです。高温で釉薬をかけずに焼きます。普段使いの食器として使われました。

調べてみよう！

鈴鹿市のホームページの地理情報にある「遺跡地図」を調べると、鈴鹿市内の遺跡の場所や情報がわかります。

また、鈴鹿市考古博物館のホームページの「鈴鹿の遺跡100」では代表的な市内の遺跡について紹介しています。

弥生土器

弥生時代に使われていた土器です。使い方に合わせて、いろいろな形の土器が作られるようになりました。常設展示室にはいろいろな形の弥生土器がたくさんあります。



須恵器

古墳時代の中ごろに朝鮮半島から技術が伝わった灰色で硬い土器です。トンネルのような窯を使って焼きます。名前は貯蔵用の甕を「すえのうつわもの」と呼んでいたのに由来しています。

瓦

朝鮮半島から仏教が伝わったときに、お寺を建てる技術のひとつとして伝わりました。屋根の端に使う瓦（軒丸瓦・軒平瓦）には模様をつけられました。古代の軒丸瓦には仏教と関係の深い蓮の花の模様がよく使われています。



宝物と言え、私達はついつい大きな博物館や資料館にだけあるものと思いがちですが、実は自分たちのすぐ身の周りにも、その地域の歴史を考える上で重要です。

どれも、その学校の歴史と伝統を伝える大切な宝物ばかりです。

ですから、これらの宝物を自分達の学校でこれからも大切に保管し、後世に伝えてい

がわかってもらえただけ残念ですが、たことは、いくつかの資料について出土状況やその学校に所蔵された経緯がわからなかったことです。せつかくの宝物が身元不明だったのです。時間が経つと記録や記憶はどうしても失われがちになりますので、資料とともに記録もしっかり保管していくことが大切であることがよくわかりました。

に保管し、後世に伝えてい、ただくことを願って止みません。

最後になりましたが、今回の企画展を開催するにあたり、貴重な資料をお貸しいただくとともに、御指導・御協力を賜りました関係各位に厚くお礼を申し上げます。